

平成 26 年度 幼稚園自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標を掲げている。

1. げんきであかるい子
2. こころのやさしい子
3. よく考え、工夫し、表現する子

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

平成 27 年度に認定こども園に移行すること踏まえ、子ども達が個から集団としての意識を持って活動できるよう、保育の内容を見直し、新たに指導計画を作成した。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特別な支援の必要な子どもに対して、外部の専門機関と連携を取りながら子ども達一人ひとりが成長していけるようその子に合った指導や援助の計画を立てる。保育者間で共通の意識と理解を持って子ども達に関われるように園内での研修を行う。	特別な支援が必要な子どもに対して、外部の専門機関と協力しながらその子に合った指導や援助の計画をたて、実践した。その取り組みの中で、その子なりの成長を認めることができた。園全体で共通理解し、引き続き専門的知識や見地が身につくよう、研修を行っていく必要がある。
保育内容に適した教材や環境設定を研究し、活動に合った保育設定を実践していけるよう努める。また、子どもたちが個から集団としての意識を持って活動に参加できるよう指導方法の見直しを行う。	平成 27 年度の認定こども園への移行を目指し、年間指導計画・月間指導計画・週案を新たに作成した。また、指導方法や教材などを研究し、子ども達が個から集団への意識を持って活動できるよう努めた。
幼稚園内外を問わず、保育者自身が広く知識を求め、研修に参加する意識を持つ。更に、職員間での研修を随時行い、あらゆる分野でのスキルアップ、保育技術の向上を目指し取り組んでいく。	外部研修への参加、園内研修の充実を図り、職員一人ひとりが問題意識を持って取り組む事ができた。また、研修で得た知識や技術を保育に活かし、子どもたちの生きる力を伸ばす保育、一人ひとりに合った保育を行うよう努力してきた。
災害発生時の避難訓練において、新たに竜巻発生時の避難方法を計画し実践していく。新たな避難方法の改善点を研究しながら、竜巻発生時の避難計画を確立させていく。また、災害発生時の状況によって、職員一人ひとりが最善の判断と行動ができるよう職員間であらゆる場면을想定し繰り返し避難のシュミレーションを行っていく。	災害に対する避難方法・保護者との連絡形態などを見直し、新たに職員間・保護者間の危機管理マニュアルを作成した。また、繰り返し避難訓練を行い、子ども達と反省点や改善点を話し合い、子ども達自らが意見を出し考えられるような機会を作った。子ども達が、災害時の避難方法などの知識を身につけられるような活動を取り入れる工夫をした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

職員全員が課題の克服を目指し、保育内容の改善に取り組みながら、子ども達一人ひとりの成長につなげる努力ができた為、概ね目標は達成できた。

5. 今後取り組むべき課題

特別支援教育の取り組み	特別な支援の必要な子どもに対して、外部の専門機関と協力し合い、長期的な目標と見通しを持ち、その子に合った指導や援助の計画を立てる。保育者間で共通の意識と理解を持てるよう工夫し、園内での研修を行っていく。
認定こども園に移行しての保育内容の見直し	認定こども園としての専門性を、保育者一人ひとりが理解できるよう研修・研究を行っていく。年間指導計画・月間指導計画・週案・日案を見直し、幼稚園教育を継承しながらも、認定こども園としての役割が果たせるよう努めていく。
職員研修の充実	保育者同士が協力し、お互いに成長できるような環境の中で、子ども達が生きる力を獲得できるような保育を目指し、園内外の研修の充実を図る。
危機管理マニュアルの見直し	危機管理マニュアルの見直しを行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。また、避難訓練などを通し、子ども達自身の危機管理能力の向上に繋がるような保育を心がけるようにする。

6. 学校関係者の評価

学校関係者より、幼稚園運営は良好との意見をいただいた。自己評価を行う中で、反省点をみつけ子ども達の成長を願い改善していこうと努力する姿勢が見られる。との評価をいただく。

7. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。